

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2013年第12週
(3月18日～3月24日)

- * 2013年3月27日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「冬の食中毒」も記載しています。

平成25(2013)年3月28日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2013年12週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		9週	10週	11週	12週	年累計	12週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	79	80	79	51	831	299	5,159
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢	1		1	3	8	4	28
	腸管出血性大腸菌感染症	3	3	2	1	13	10	145
	腸チフス		2		1	6	1	12
	パラチフス			2	2	6	4	13
四類	E型肝炎	3		3	2	14	4	34
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1		2		5	3	35
	エキノкокクス症							3
	黄熱							
	オウム病					2		1
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症				2	2	1	2
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 *2							2
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱			1		2		5
	つつが虫病							32
	デング熱	1	2	1		6	1	30
	東部ウマ脳炎							
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)								
ニパウイルス感染症								
日本紅斑熱							1	
日本脳炎								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		9週	10週	11週	12週	年累計	12週	年累計
四 類	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア				1	4	1	12
	野兔病							
	ライム病							1
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽	1				1		2
	レジオネラ症		1	1	2	17	13	167
	レプトスピラ症							1
ロッキー山紅斑熱								
2013/3/27集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。2013年3月4日より新たに追加指定された。

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 51件 肺結核 27件、その他の結核 6件、無症状病原体保有者 16件、疑似症 2件、年齢は10代 2件、20代 10件、30代 4件、40代 6件、50代 7件、60代 6件、70代 8件、80代 5件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 50件、中国 1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 3件 患者 3件、年齢は20代 1件、60代 1件、70代 1件、菌種はソンネ 2件、不明 1件、推定感染地は国内 1件、インド 2件、推定感染経路は経口感染 2件、その他(不明) 1件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 1件 無症状病原体保有者、血清型・毒素型はO26 VT1、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染又は接触感染 1件であった。この症例は、11週で報告のあった患者(O26 VT1)の家族である。

腸チフス 1件 患者、年齢は20代、推定感染地はインド、推定感染経路は経口感染であった。

パラチフス 2件 患者 2件、年齢は30代 1件、40代 1件、推定感染地はカンボジア 1件、ネパール 1件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 2件 患者 2件、年齢は60代 1件、80代 1件、国内 2件(北海道 1件、東京都 1件)、推定感染経路は経口感染 2件(うち1件は羊の生肉喫食あり)であった。

コクシジオイデス症 2件 患者 2件、年齢は20代 2件、推定感染地は米国(カリフォルニア州ベンカーズフィールド) 2件、推定感染経路は塵埃感染 2件であった。2人とも同一会社に所属し、海外研修先で曝露を受けている。

マラリア 1件 患者、年齢は40代、病型は熱帯熱、推定感染地はシエラレオネであった。

レジオネラ症 2件 肺炎型 2件、年齢は50代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は水系感染(温泉) 2件であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2013年12週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		9週	10週	11週	12週	年累計	12週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	6	3	4	5	44	8	212
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	1	2		2	15	2	48
	急性脳炎 *	1			3	12	5	115
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			3	1	36
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	6		50
	後天性免疫不全症候群	7	6	14	4	91	11	280
	ジアルジア症		1	1		4		13
	髄膜炎菌性髄膜炎						2	2
	先天性風しん症候群							2
	梅毒	4	8	14	8	79	12	209
	破傷風					2	2	16
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					4		22
	風しん	122	138	148	127	1,038	292	2,418
麻しん	2	2	3	4	26	8	73	
2013/3/27集計								

* ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 5件 腸管 5件、年齢は40代 3件、60代 2件、推定感染地は国内 3件、マレーシア 1件、国内又は国外（渡航先不明）1件、推定感染経路は性的接触 2件（同性間 1件、異性間 1件）、その他（不明）3件であった。

ウイルス性肝炎 2件 B型 1件、C型 1件、年齢はそれぞれ10代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路はその他（不明）2件であった。

急性脳炎 3件 病原体は単純ヘルペスウイルス 1件、風しん 1件、病原体不明 1件、年齢は30代 1件、40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路はその他（不明）3件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 A群、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は創傷感染であった。

後天性免疫不全症候群 4件 AIDS 1件、無症候キャリア 3件、AIDS患者の年齢は40代 1件、無症候キャリアは30代 3件、推定感染地は国内 3件、中国 1件、推定感染経路は性的接触 4件（同性間 3件、異性間 1件）であった。無症候キャリアの1件は、梅毒（9週報告）との重複感染を認めている。

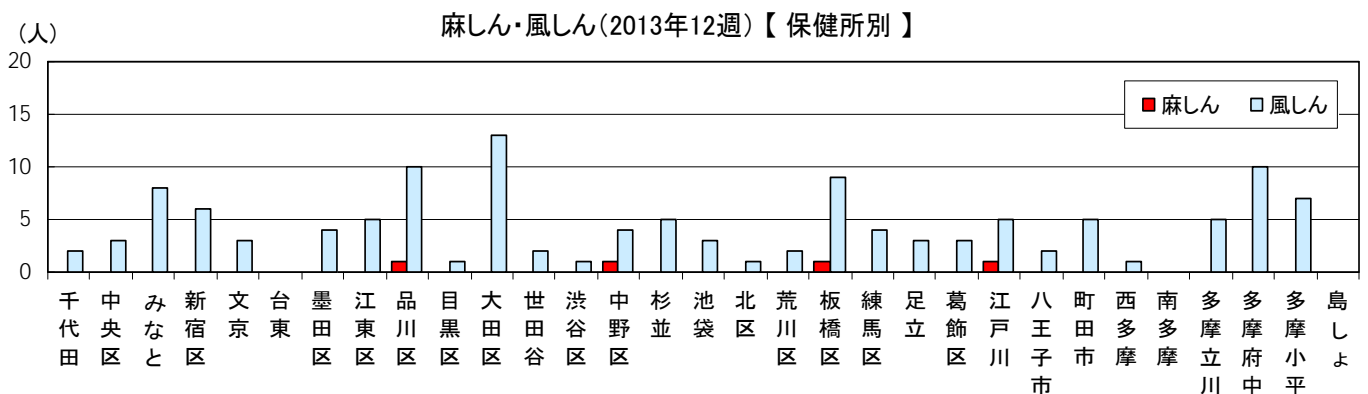
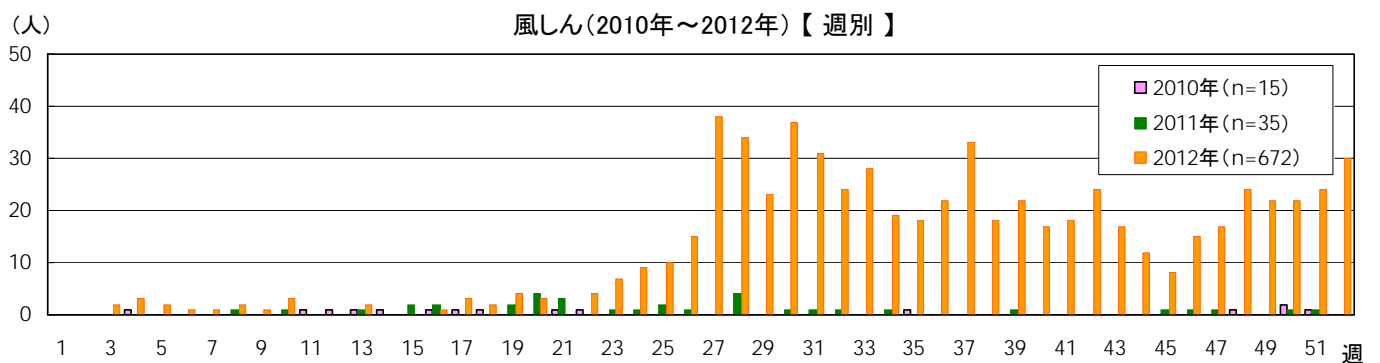
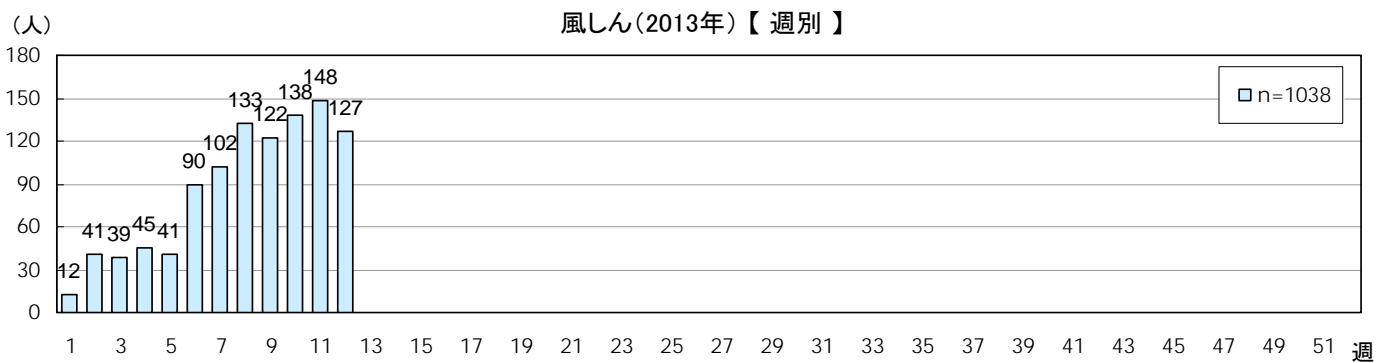
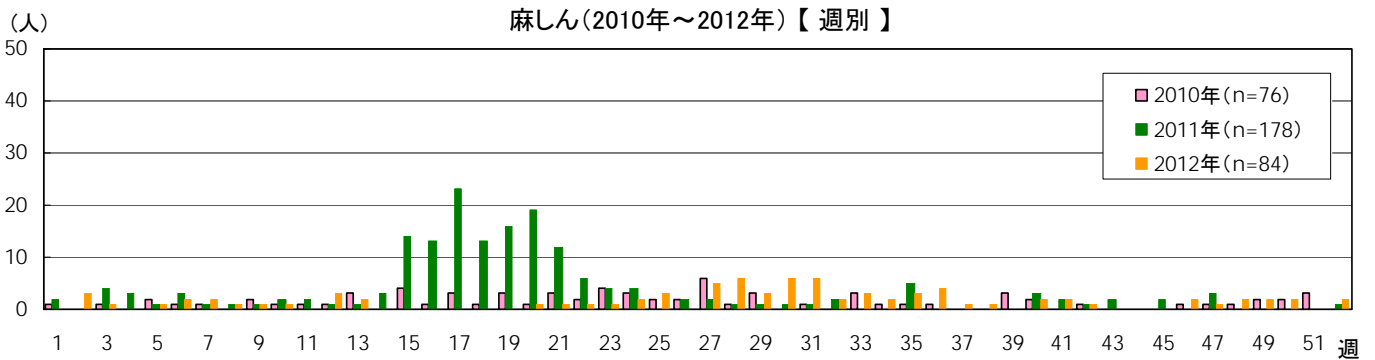
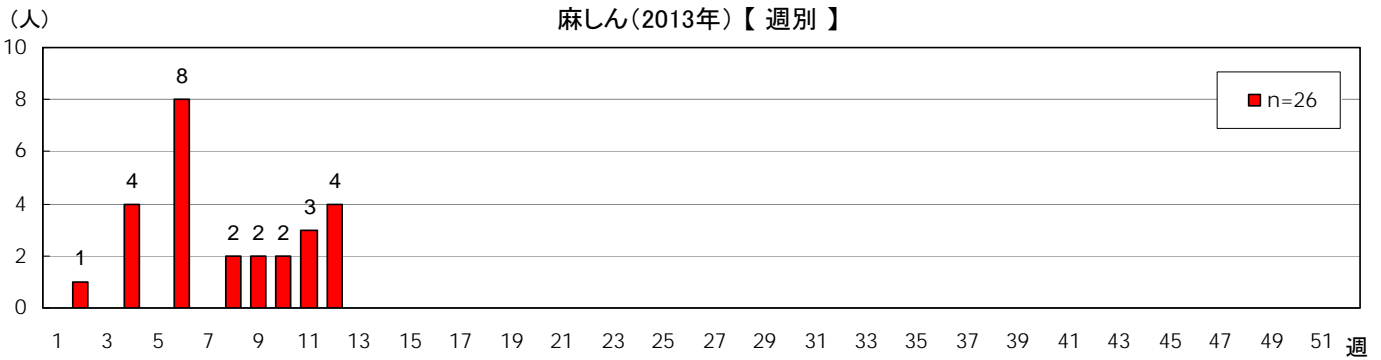
梅毒 8件 早期顕症梅毒Ⅰ期 3件、早期顕症梅毒Ⅱ期 2件、晩期顕症梅毒 1件、無症候梅毒 2件、年齢は30代 3件、40代 4件、50代 1件、推定感染地は国内 8件、推定感染経路は性的接触 8件（同性間 4件、異性間 3件、両性間 1件）であった。

風しん 127件 検査診断例 87件、臨床診断例 40件、年齢は、10歳未満 2件（うち5歳未満 1件）、10代 6件、20代 36件、30代 46件、40代 21件、50代 14件、60代 2件、推定感染地は国内 127件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 53件、接触感染 14件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 3件、その他（不明）57件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 7件、2回接種 2件、接種なし 37件、不明 81件であった。

麻しん 4件 臨床診断例 2件、検査診断例 1件、修飾麻しん 1件、年齢は5歳未満 1件、20代 1件、40代 2件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、その他（不明）3件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回接種 1件、不明 3件であった。

※ 第11週該当分として、〔五類〕風しん 4件、麻しん 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患(麻しん・風しん)報告数(週別・保健所別)



定点把握対象疾患 報告数 2013年12週

定点種別	対象疾患	2013年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		9週	10週	11週	12週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	67	35	45	39	0.15	264	264
	咽頭結膜熱	67	75	63	50	0.19		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	634	722	710	639	2.42		
	感染性胃腸炎	2,681	3,105	3,391	2,864	10.85		
	水痘	168	200	185	224	0.85		
	手足口病	24	19	21	25	0.09		
	伝染性紅斑	21	24	25	23	0.09		
	突発性発しん	128	158	143	149	0.56		
	百日咳	2	3		1	0.00		
	ヘルパンギーナ	8	5	4	7	0.03		
	流行性耳下腺炎	46	68	39	55	0.21		
	川崎病(注1)	8	4	5	3	0.01		
不明発しん症(注1)	21	14	13	17	0.06			
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	1,913	1,480	1,064	870	2.08	418	419
眼科	急性出血性結膜炎	1					38	39
	流行性角結膜炎	15	8	17	11	0.29		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	2	2	3			25	25
	無菌性髄膜炎	2	1	6	3	0.12		
	マイコプラズマ肺炎	10	8	17	10	0.40		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	3			1	0.04		
	インフルエンザ入院(注4)	17	6	7	6	0.24		
2013/3/27集計								

- (注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。
 (注2) 鳥インフルエンザを除く。
 (注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。
 (注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・ A群溶血性連レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年平均と比較して高い値で推移している。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

港区

- ・ 感染性胃腸炎23名中、ロタウイルス 4名。

台東区

- ・ 4歳児の1名は、咽頭結膜炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎を併発。

墨田区

- ・ 2歳8か月児の1名は、臨床経過から突発性発しんと診断。1歳児の不明発しん症は、手背・足背などは手足口病に似るが、手掌は全体に発赤と一部落屑であり、不明発しん症とした。

世田谷区

- ・ アデノウイルス迅速キット陽性 2名。グループ 1名。
- ・ ロタウイルス 3名(1歳児 2名、10歳児 1名)。
- ・ 溶連菌感染症が流行。

荒川区

- ・ 便中ロタウイルス 2名。
- ・ 感染性胃腸炎が年齢問わず多いです。ロタウイルス迅速キット陽性 2名。ヒトメタニューモウイルス迅速キット陽性 16名。
- ・ 感染性胃腸炎10名中、病原性大腸菌O1 2名。O125、ウェルシュ菌 各1名。

板橋区

- ・ 病原大腸菌O1、O18各 1名。便ロタウイルス抗原陽性 1名。

八王子市

- ・ アデノウイルス咽頭炎 2名(2歳児、3歳児 各1名)。
- ・ ロタウイルス胃腸炎 3名(1歳児 2名、8歳児 1名)。
- ・ ロタウイルス胃腸炎 1名(2歳児)。
- ・ ロタウイルス 2名(4歳児、7歳児 各1名)、ノロウイルス 1名(2歳児)。

南多摩

- ・ 感染性胃腸炎の患者さんが多かったです。

多摩小平

- ・ ロタウイルス 6名。
- ・ ロタウイルス腸炎 11名、病原性大腸菌 13名、アデノウイルス腸炎 1名、ヒトメタニューモウイルス 18名。
- ・ 感染性胃腸炎が多いです。溶連菌感染症は少ないですが、一定割合でいるようです。

※「定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント」は15ページに記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2013年12週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
～5か月	9			11	2			2			
～1歳	7	1	4	108	8	2	2	62		1	
1歳	14	7	13	353	22	5	2	74		3	4
2歳	5	8	28	312	34	4	1	6		1	3
3歳	3	6	46	246	44	4	2	4		1	5
4歳	1	12	104	262	49	3	2	1			8
5歳		5	83	212	23	2	5				12
6歳		4	86	209	18	2	3				9
7歳			71	188	10	2	1				4
8歳		2	61	180	2		2				2
9歳		2	36	118	4		1				1
10～14歳		1	70	288	6		1				4
15～19歳			5	56	1						1
20～29歳		2	32	321	1	1	1		1	1	2
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	39	50	639	2,864	224	25	23	149	1	7	55
先週比	-6	-13	-71	-527	39	4	-2	6	1	3	16

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹				
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	インフルエンザ入院
～5か月		2	4							1
～1歳			11							
1歳		5	22					1		
2歳		3	20							
3歳		1	26					1		
4歳		2	56		1			3		1
5歳	2	2	77					1		
6歳			69					1		
7歳	1		74							
8歳			41							
9歳			47							
10～14歳		1	149				1	3		
15～19歳			38							
20～29歳		1	33		1					
30～39歳			80		2		1			
40～49歳			78		2					
50～59歳			19				1			2
60～69歳			16		3					
70～79歳			7		2				1	1
80歳以上			3							1
合計	3	17	870		11		3	10	1	6
先週比	-2	4	-194		-6	-3	-3	-7	1	-1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2013年12週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				3.33	1.00					
中央区			1.67	6.00	1.33			1.33		
みなと	0.33	0.33	2.83	7.50	0.17			1.00		0.33
新宿区	0.38		2.25	7.00	0.75			0.25		
文京	0.25	1.00	0.50	3.00	0.25	1.00		0.25		
台東		0.50	1.75	16.25	0.25			0.75		
墨田区			2.80	5.00	0.80			0.20		
江東区	0.56		2.67	15.89	1.00	0.44		0.67		
品川区	0.13		1.88	9.00	0.88			0.50		
目黒区		0.40	0.20	2.60	0.20		0.20			
大田区	0.31	0.31	2.85	11.62	0.54	0.08	0.23	0.77		
世田谷	0.06		3.44	10.81	0.56			0.56		0.06
渋谷区				6.00			0.25	0.25	0.25	
中野区			1.14	11.14	0.14			0.14		
杉並			0.20	9.40	0.30		0.10	0.50		0.10
池袋	0.20		1.00	5.00	0.20			0.20		
北区			0.43	8.57	0.14			0.57		
荒川区			4.00	23.00	0.25	0.75		0.75		
板橋区		0.10	1.40	5.30	0.10	0.10		0.30		
練馬区			2.85	10.00	2.15	0.31		0.85		
足立		0.08	1.62	9.38	0.85		0.23	0.15		0.08
葛飾区		0.13	1.88	11.50	1.50			0.50		
江戸川	0.17	0.83	3.08	15.00	0.67	0.08	0.33	0.92		
八王子市	0.45	0.55	6.82	20.00	1.36	0.36	0.09	0.45		
町田市	0.13		7.50	21.38	4.00		0.13	1.00		0.13
西多摩		0.25	1.88	6.38	0.88			0.25		
南多摩	0.33	0.11	2.56	12.22	0.22		0.56	0.67		0.11
多摩立川	0.14	0.07	1.79	10.36	1.29		0.14	0.57		
多摩府中	0.29	0.05	2.43	12.38	0.76	0.10	0.05	1.05		
多摩小平	0.13	0.80	2.47	11.60	0.93	0.07		0.40		
島しょ										
東京都	0.15	0.19	2.42	10.85	0.85	0.09	0.09	0.56	0.00	0.03

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田			0.33	2.00							
中央区				2.00							
みなと	1.00			3.89							
新宿区			0.13	0.75					0.50		0.50
文京	0.25			0.57							
台東				1.43							
墨田区			0.20	1.88				2.00			
江東区	0.33		0.22	2.36							
品川区			0.13	0.50							
目黒区	0.20			0.50							
大田区			0.15	1.86							
世田谷	0.06		0.19	2.04							1.50
渋谷区				2.29							
中野区	0.43			1.64							
杉並	0.20			3.25		1.00					
池袋				0.63							1.00
北区	0.57			0.91							
荒川区				3.00							
板橋区				2.81		3.50					
練馬区	0.15			1.86							
足立	0.15			1.10		0.50					
葛飾区	0.25		0.13	1.31					4.00	1.00	
江戸川	0.08			5.21							
八王子市	0.36	0.09	0.09	0.89							
町田市			0.25	4.08							
西多摩	0.50	0.13		2.00							
南多摩	0.44	0.11		2.36							
多摩立川	0.50		0.07	2.05					1.00		
多摩府中	0.29			1.73				0.33	0.67		
多摩小平	0.13		0.07	3.22		1.00			1.00		0.50
島しょ											

東京都	0.21	0.01	0.06	2.08		0.29		0.12	0.40	0.04	0.24
-----	------	------	------	------	--	------	--	------	------	------	------

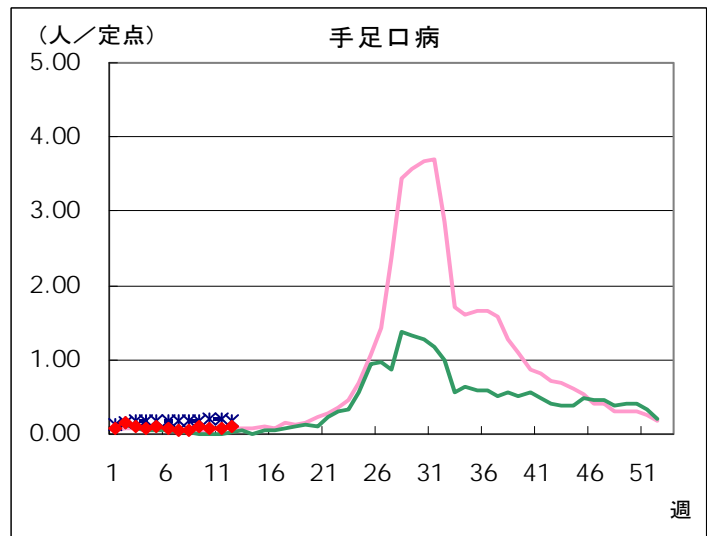
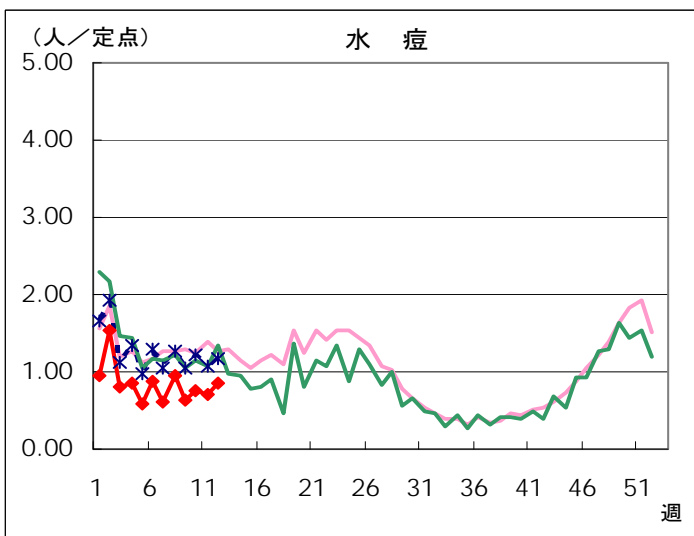
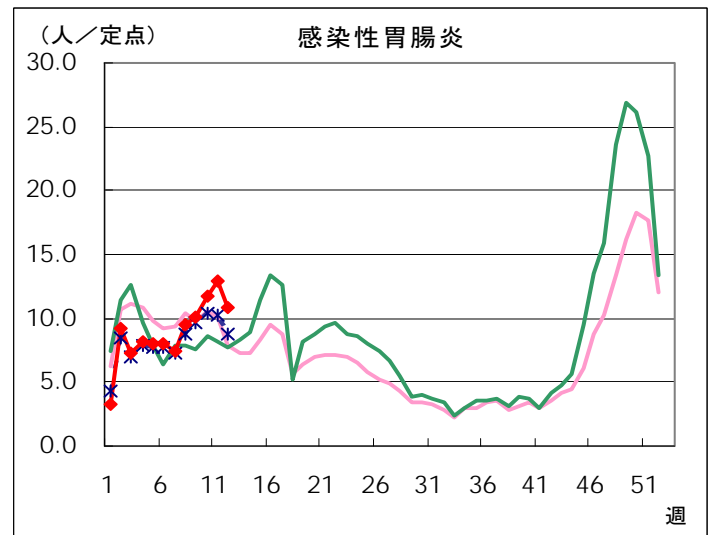
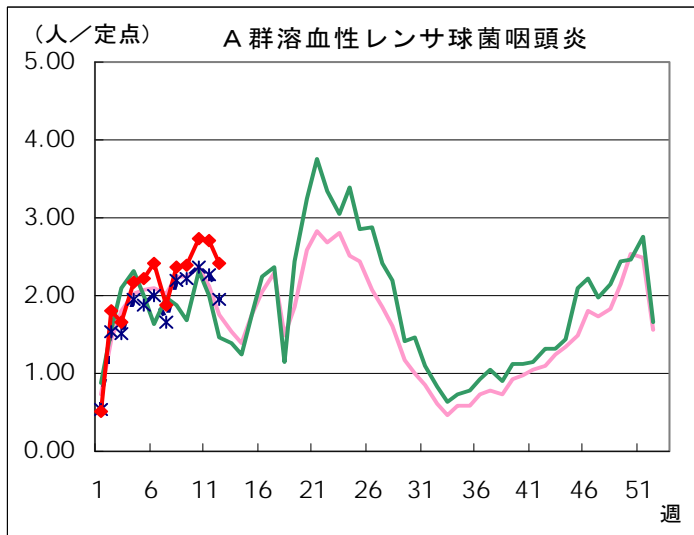
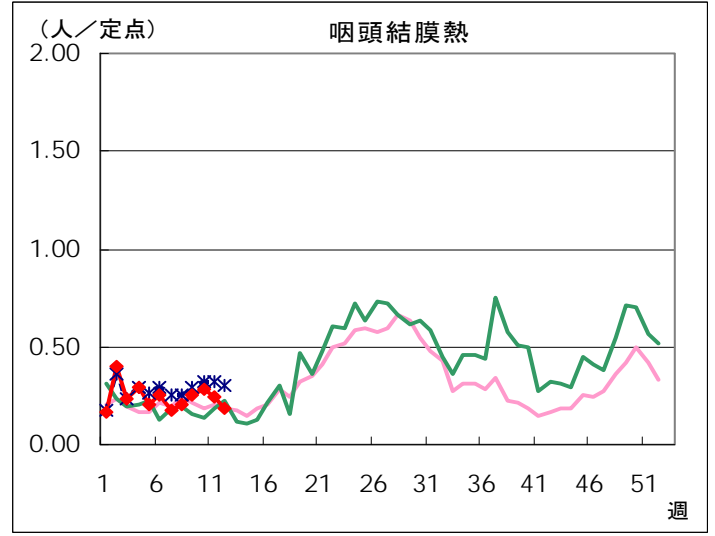
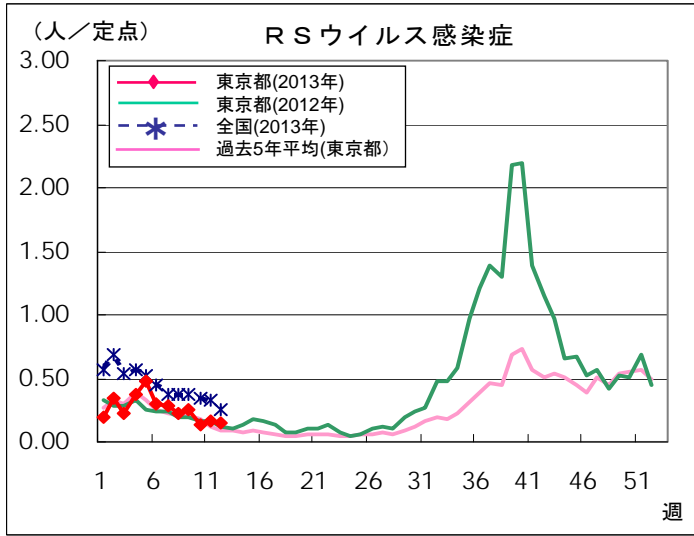
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2013年12週

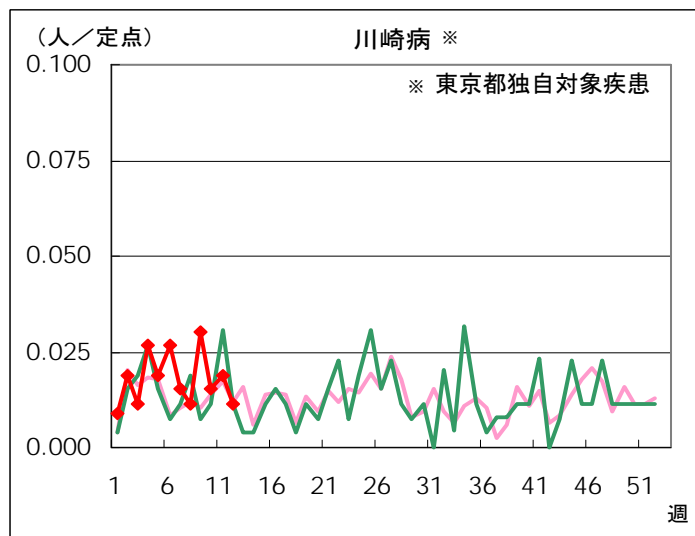
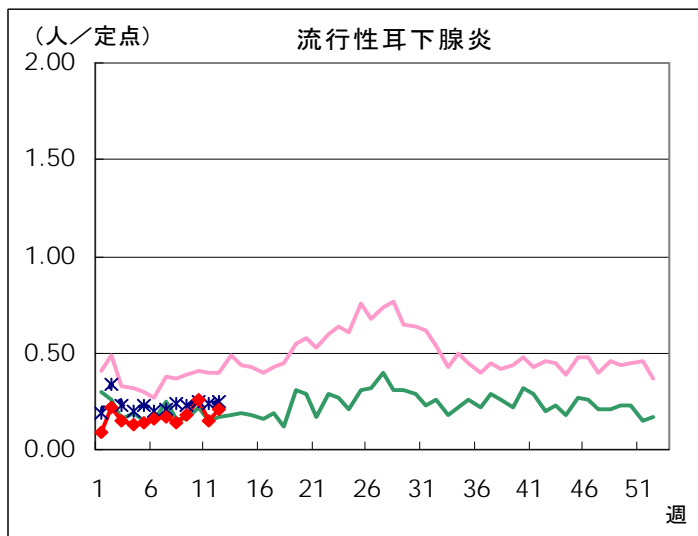
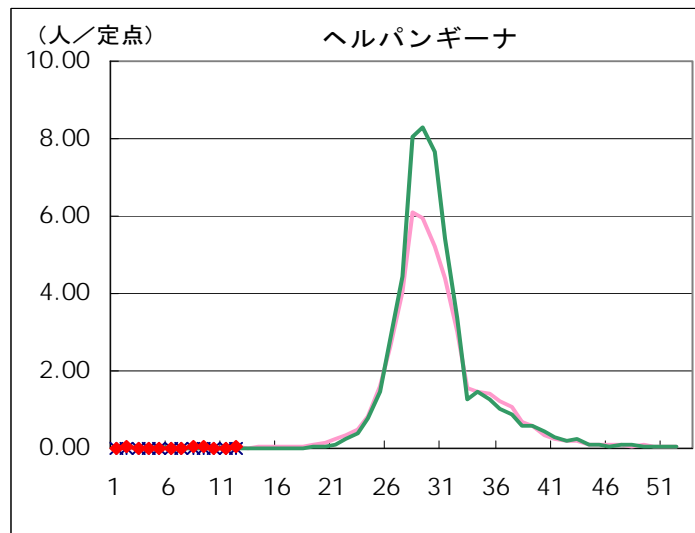
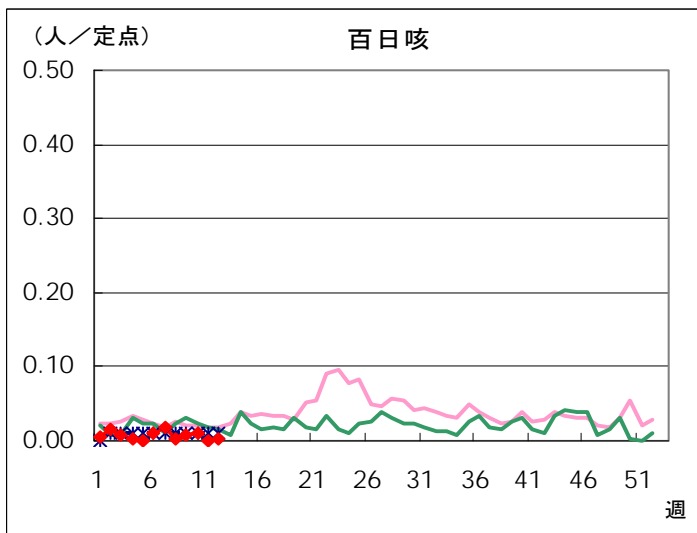
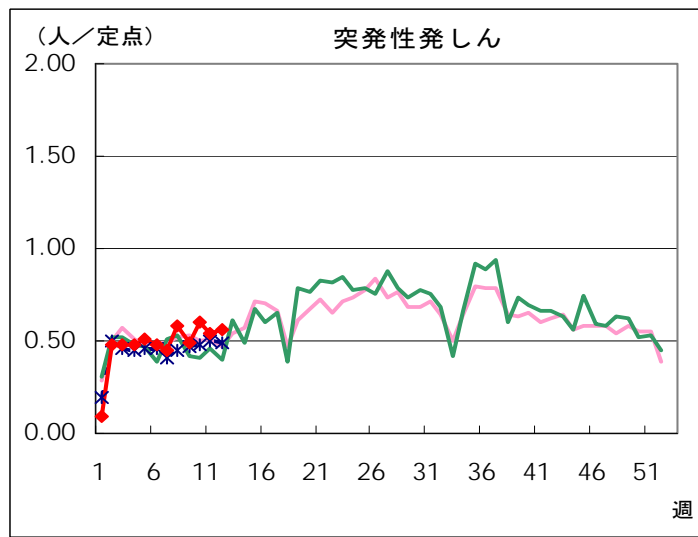
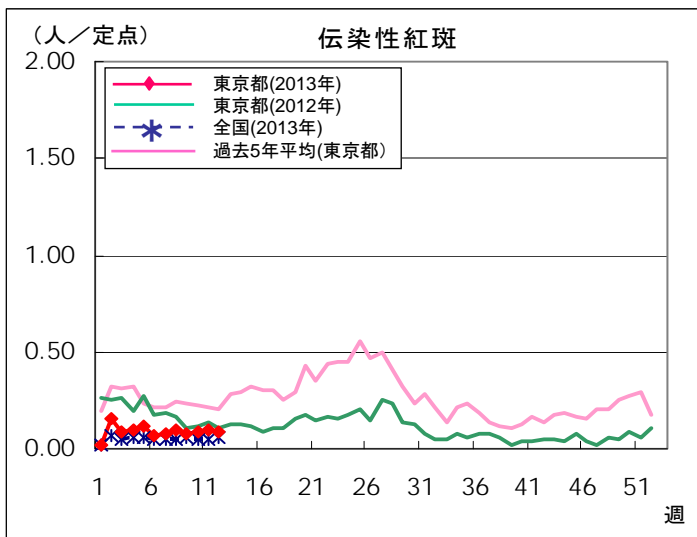
定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				10	3					
中央区			5	18	4			4		
みなと	2	2	17	45	1			6		2
新宿区	3		18	56	6			2		
文京	1	4	2	12	1	4		1		
台東		2	7	65	1			3		
墨田区			14	25	4			1		
江東区	5		24	143	9	4		6		
品川区	1		15	72	7			4		
目黒区		2	1	13	1		1			
大田区	4	4	37	151	7	1	3	10		
世田谷	1		55	173	9			9		1
渋谷区				24			1	1	1	
中野区			8	78	1			1		
杉並			2	94	3		1	5		1
池袋	1		5	25	1			1		
北区			3	60	1			4		
荒川区			16	92	1	3		3		
板橋区		1	14	53	1	1		3		
練馬区			37	130	28	4		11		
足立		1	21	122	11		3	2		1
葛飾区		1	15	92	12			4		
江戸川	2	10	37	180	8	1	4	11		
八王子市	5	6	75	220	15	4	1	5		
町田市	1		60	171	32		1	8		1
西多摩		2	15	51	7			2		
南多摩	3	1	23	110	2		5	6		1
多摩立川	2	1	25	145	18		2	8		
多摩府中	6	1	51	260	16	2	1	22		
多摩小平	2	12	37	174	14	1		6		
島しょ										
東京都合計	39	50	639	2,864	224	25	23	149	1	7

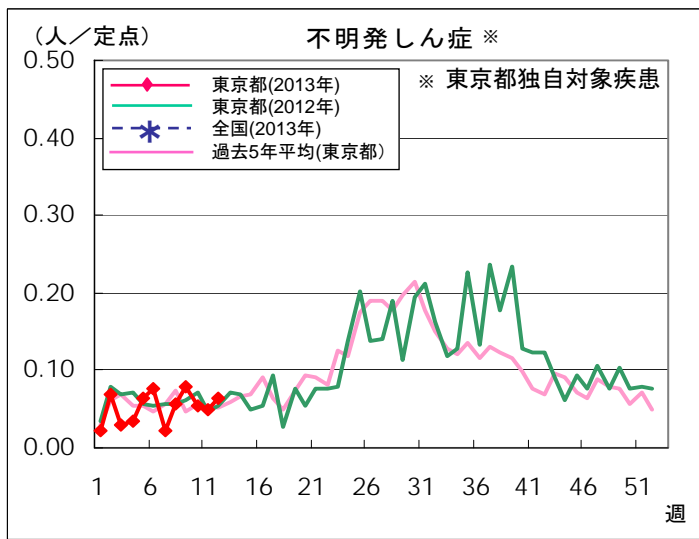
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田			1	8							
中央区				10							
みなと	6			35							
新宿区			1	9					1		1
文京	1			4							
台東				10							
墨田区			1	15				2			
江東区	3		2	33							
品川区			1	6							
目黒区	1			4							
大田区			2	39							
世田谷	1		3	51							3
渋谷区				16							
中野区	3			18							
杉並	2			52		1					
池袋				5							1
北区	4			10							
荒川区				21							
板橋区				45		7					
練馬区	2			39							
足立	2			22		1					
葛飾区	2		1	17					4	1	
江戸川	1			99							
八王子市	4	1	1	16							
町田市			2	53							
西多摩	4	1		28							
南多摩	4	1		33							
多摩立川	7		1	41					1		
多摩府中	6			57				1	2		
多摩小平	2		1	74		2			2		1
島しょ											
東京都合計	55	3	17	870		11		3	10	1	6

定点把握対象疾患 週別報告数(2013年12週 現在)

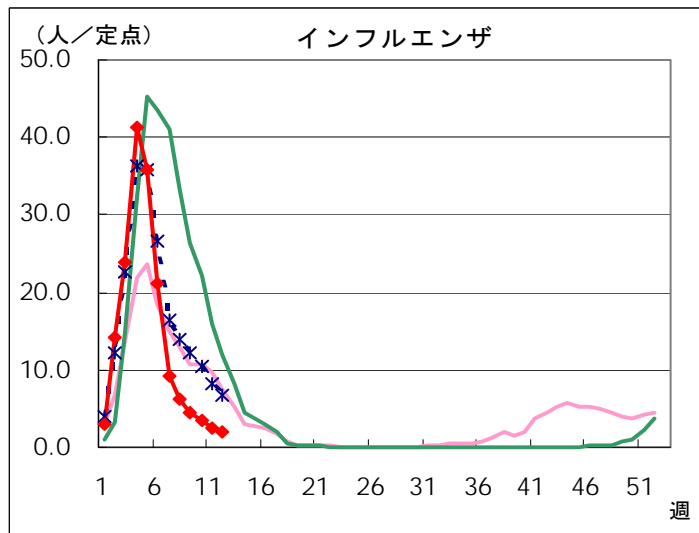
◆ 小児科定点



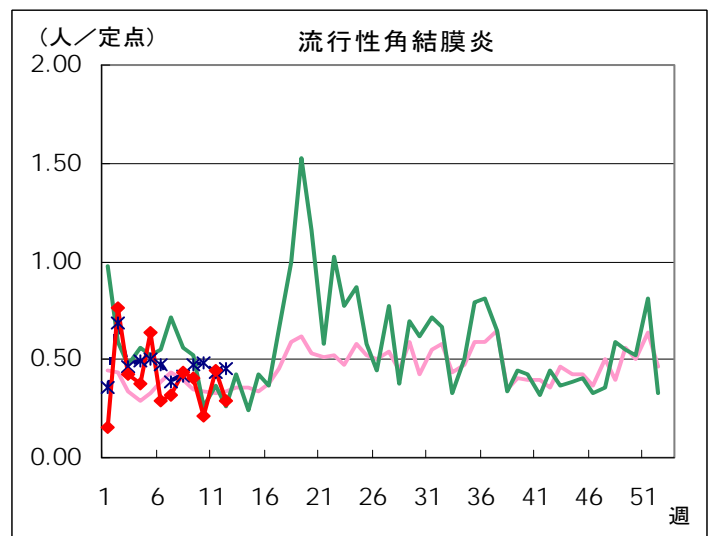
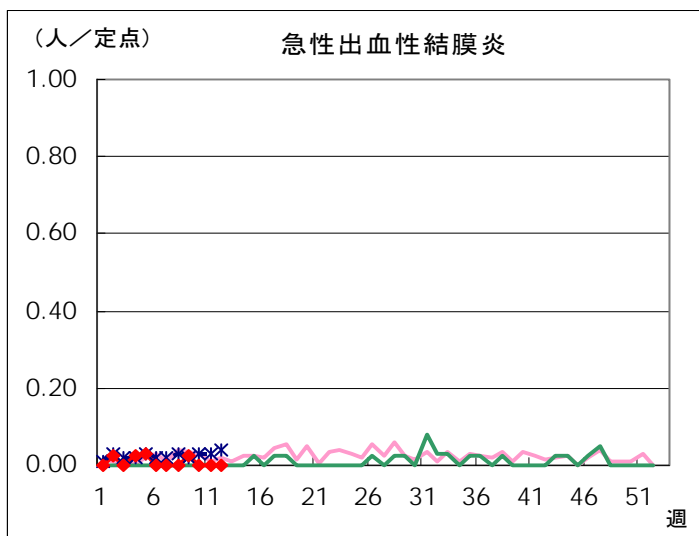




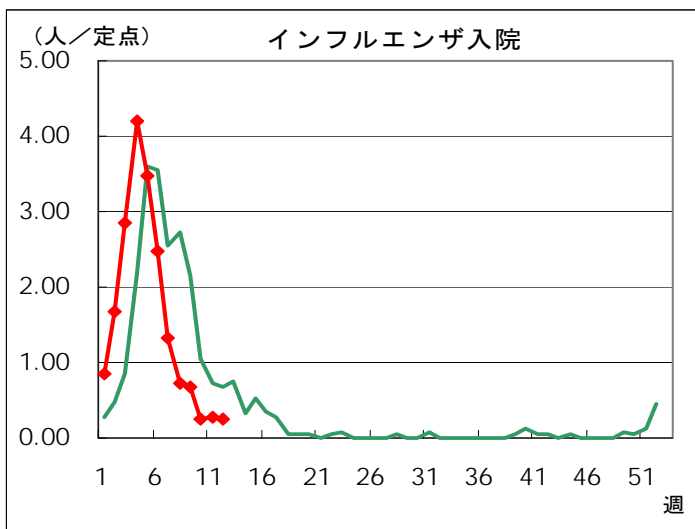
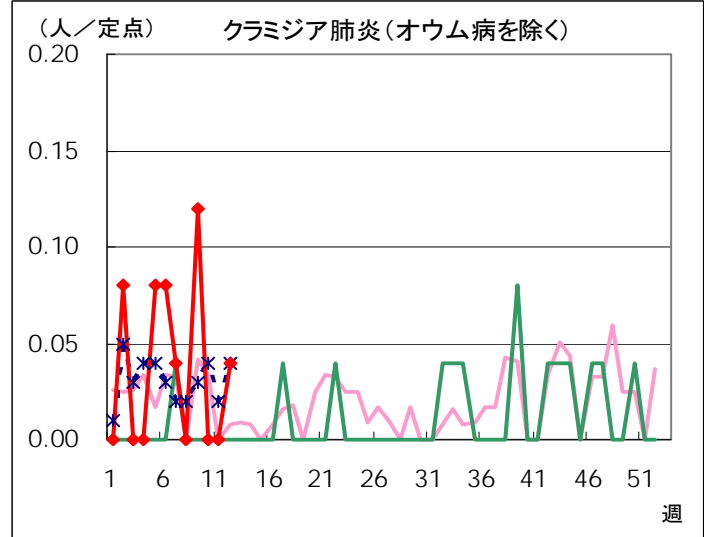
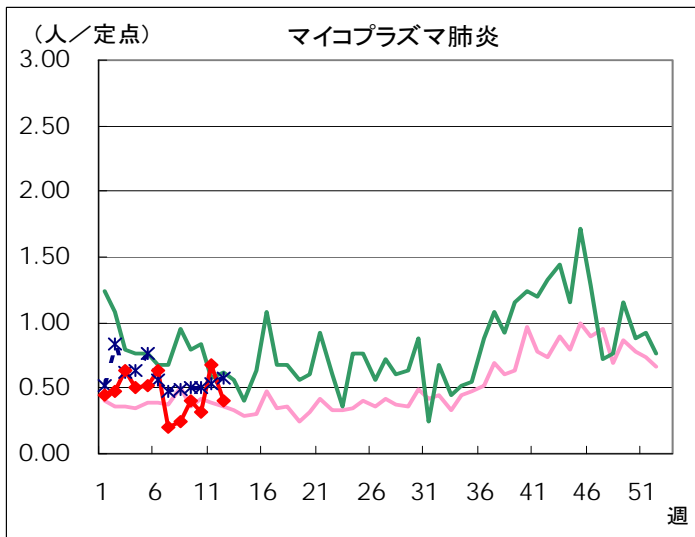
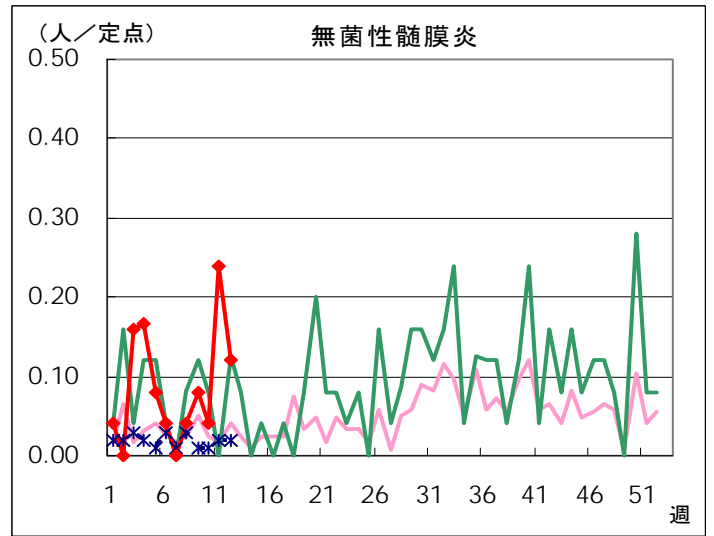
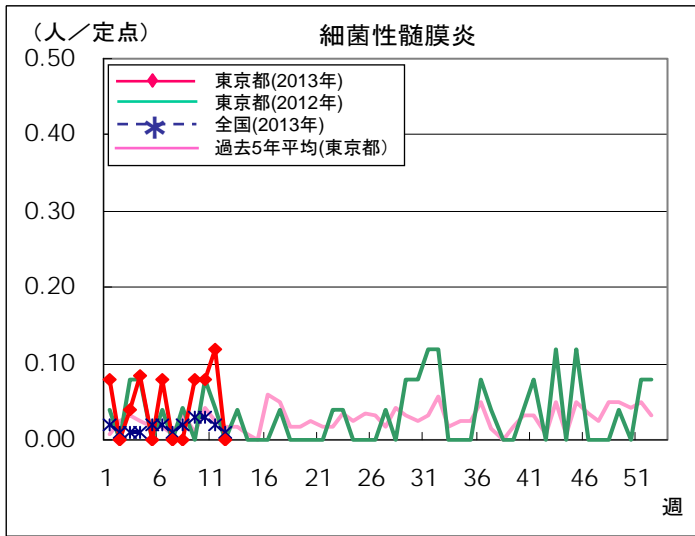
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関からいただきました、インフルエンザ迅速診断結果とコメントを下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果			医療* 機関数	備 考
	A型	B型	記載なし		
千代田	1	3		1	
みなと	7	14		5	
台東	5	2		4	
墨田区	1	2		3	
江東区	10	19	3	8	
品川区		2		1	
目黒区		3		2	
大田区	8	2	2	5	・報告の1名はインフルエンザB型でした。「学校もあと一日だったのに、ここでインフルエンザなんて」と、お母様が言っていました。当院も今週は0人の予定でしたが…。
世田谷	9	7	3	6	・報告の3名とも、同一幼稚園。 ・報告の4名はインフルエンザA型でした。同一中学生 3名、小学生 1名。局所の流行。
渋谷区	2	4		1	
中野区	7	9		6	・臨床診断例 1名(2医療機関より)。
杉並	2	2	3	2	
池袋		1		1	
北区	5	1		3	
荒川区	9	8		4	
練馬区	9	5		6	
葛飾区	7	10		9	
八王子市	6	6		9	
町田市	8	6	4	4	
西多摩	10	12		4	
南多摩	10	19		8	
多摩立川	5	4		5	
多摩府中	2	7		1	
多摩小平	9	14	5	7	
総計	132	162	20	105	

* 迅速診断結果をご報告いただいた医療機関数

定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法	
記載なし	RSウイルス細気管支炎	18D	咽頭拭い液	RSウイルス	遺伝子	
3/12	急性上気道炎	1M	咽頭拭い液	エンテロウイルス		
3/6	小児喘息性気管支炎	6M	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス		
3/8	気管支炎	8M	鼻汁	ライノウイルス		
3/6	川崎病	9M	咽頭拭い液	エンテロウイルス		
3/6	感染性胃腸炎	10M	糞便	サポウイルス		
3/9	風しん疑い	11M	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型		
3/14	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス		
3/5	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ライノウイルス		
3/5	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型		
3/6	突発性発しん	1	咽頭拭い液	風しんウイルス 麻しんウイルス エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型		
3/13	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型		
3/14	発赤 エンテロウイルス感染症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス		
3/12	咽頭炎	2	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス		
3/13	水痘	2	咽頭拭い液	ライノウイルス 水痘帯状疱疹しんウイルス		
3/9	左耳下腺部腫脹	3	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス		
3/12	突発性発しん	5	吐物	ヒトヘルペスウイルス 6型		
3/4	感染性胃腸炎	6	糞便	サポウイルス		
3/11	感染性胃腸炎	6	直腸拭い液	A群ロタウイルス		抗原
3/14	急性気管支炎	6	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス		遺伝子
3/8	流行性耳下腺炎	6	咽頭拭い液	ムンプスウイルス		
3/6	デング熱	21	血清	デングウイルス 1型 ※1		
3/12	風しん 麻しん	22	咽頭拭い液	風しんウイルス ※2		
3/11	流行性角結膜炎	34	結膜拭い液	アデノウイルス		
3/8	不明発しん症	48	咽頭拭い液	風しんウイルス		
3/13	感染性胃腸炎	61	糞便	ノロウイルスG II		
3/11	風しん	68	咽頭拭い液	風しんウイルス ※3		
3/7	肺炎	記載なし	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス		

※1 10週報告の全数把握対象疾患症例 ※2 11週報告の全数把握対象疾患症例 ※3 12週報告の全数把握対象疾患症例

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
11週			7	1
2012-2013年 シーズン累計**	2		226	22

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記をAH1pdm09とします。

** 2012-2013シーズンの開始は第36週(2012年9月3日～)

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2013年							
		4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週
ウイルス	アデノウイルス	4	5	3	3	1	1		1
	ライノウイルス	3	7	9	2	3	5	5	5
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス					1	8	5	3
	単純ヘルペスウイルス			2	1				
	水痘・帯状疱疹ウイルス		1	1		2			1
	ヘルペスウイルス6/7	2	2	3	3	1	8	7	5
	EBウイルス	4	3	1	1	1	3	1	
	サイトメガロウイルス			1		1	1	1	1
	ムンプスウイルス		1		1	1	2		1
	麻疹ウイルス								1
	風疹ウイルス	1	2	5		1	1	3	4
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス		1		1	3	2	1	1
	ノロウイルス	1	1	2	1		1		1
	ロタウイルス			1		1		2	1
	インフルエンザウイルスAH1								
インフルエンザウイルスAH3	30	28	22	7	9	6	9	7	
インフルエンザウイルスB		5	2	2	2	5	2	1	
インフルエンザウイルスAH1pdm09	1								
デングウイルス(抗体を含む)								1	
その他のウイルス	1		2	1	2	2	9	7	
細菌	カンピロバクター			1					
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2013年4週～2013年11週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		155	30	33	26	9	3	1	11	1	6	2	36	9	5		17	89	
ウ イ ル ス	アデノウイルス	3	2	1			1		8				2	1					
	ライノウイルス	7	8	5			1		1				4	2	2		1	8	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群																		
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス		2	2						1	4		6					2	
	単純ヘルペスウイルス		1			1													1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス										1				4				
	ヘルペスウイルス6/7	1	1								3		12					1	13
	EBウイルス		2						1	1			1	2				2	5
	サイトメガロウイルス												1						4
	ムンプスウイルス													5					1
	麻疹ウイルス																		1
	風しんウイルス													4				12	1
	パルボウイルスB19																		
	RSウイルス		1	8															
	ノロウイルス				7														
	ロタウイルス				4														1
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	118																		
インフルエンザウイルスB	19																		
インフルエンザウイルスAH1pdm09	1																		
デングウイルス (抗体を含む)																		1	
その他のウイルス	1	3	14	5														1	
細 菌	カンピロバクター				1														
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

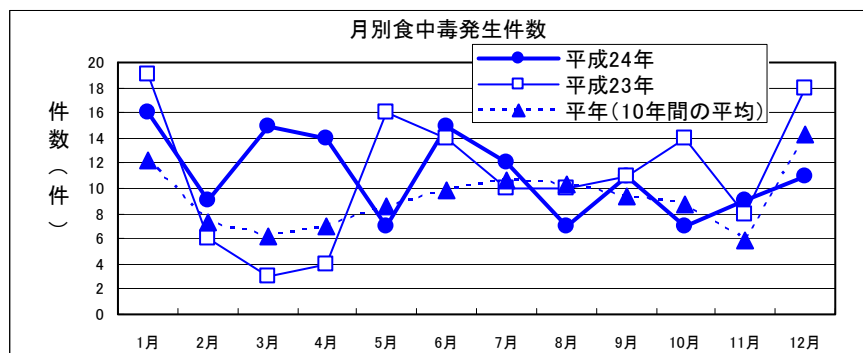
<感染症豆知識>

冬の食中毒

過去 10 年間の都内における月別の食中毒発生件数（下図）では、12 月から 1 月にかけての冬期が最も多く、いまや「食中毒の多発期は冬期」となっている。この時期、食中毒の主な原因物質はノロウイルスで、昨年末には、全国で感染性胃腸炎や食中毒が大流行し、他の自治体では患者数が 1,000 人を超える大規模な食中毒も発生している。都内でも、昨年 12 月のノロウイルス食中毒件数は 18 件（平成 23 年は 11 件）と例年に比べ増加傾向となった。

今期の大流行の原因の一つとしてノロウイルス GⅡ/4 と呼ばれる特定の遺伝子型の変異株が新たに出現し、全国に広まっていると推察されている。遺伝子型 GⅡ/4 は他の遺伝子型のものと比較して、変異を起こしやすい特徴がある。また、この遺伝子型のものは、他の遺伝子型と比較して結合できる組織血液型抗原の種類が多く、結合力も強いことから、感染力が強いタイプであると考えられている。

しかし、いずれのタイプのものであっても、ノロウイルス食中毒の 70% 以上が調理従事者からの汚染によるものと推定されており、その予防には人の衛生管理が肝要である。毎年、冬期にはノロウイルス感染症の流行がみられる現状において、調理従事者への感染リスクも高まる。ウイルス保有者から食品の汚染を防止するため、調理従事者の健康管理、作業ごとの手洗いの励行、食材の確実な加熱など一般的な衛生管理の徹底を途切れることなく実施することが必要である。



(文責 東京都福祉保健局 中村重信)